

公共施設再配置特集

次世代に大きな負担を残さないために

一進めています 公共施設の効率的な管理運営



「未来につなぐ市民力と職員力のたすき」
丹沢つなぐ君

公共施設再配置計画とは

昭和40年代から50年代にかけて、経済成長や都市化の波に乗り、日本中で公共施設が一齐につくられました。これらの公共施設は、あと10年もすると一齐に建て替えの時期を迎えますが、これに合わせるように、高齢化と人口減少がますます進み、財政運営もより厳しいものとなります。市では、平成22年10月に「公共施設の再配置に関する方針」、平成23年3月に「公共施設再配置計画」を策定し、現在、「第1期基本計画前期実行プラン」(平成23年度から平成27年度まで)において「シンボル事業」を中心とした取組を行っています。

「今までと同じ」では続かない

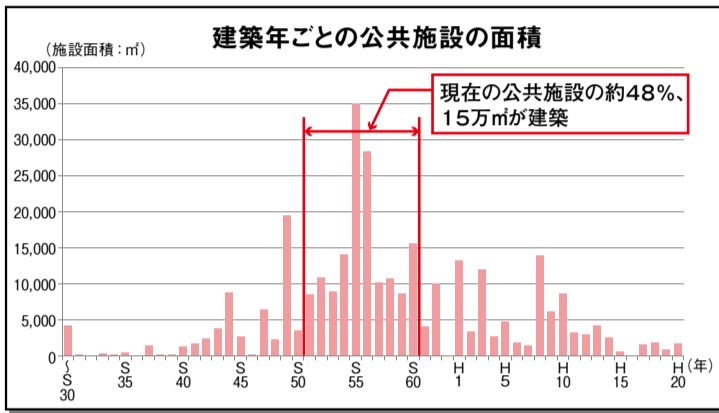
「公共施設」って公民館とか図書館のことでしょ？私あまり使ってないけど…。

そうなの！？もっとみんなが公共施設に関心を持たなきゃいけないね。

みらいちゃん

保育園・幼稚園や小・中学校もそうだよね。使う人が使用料を払う施設もあるけれど、施設を維持するためには、それだけでは足りなくて、みんなの税金が使われているんだ。

つなぐ君

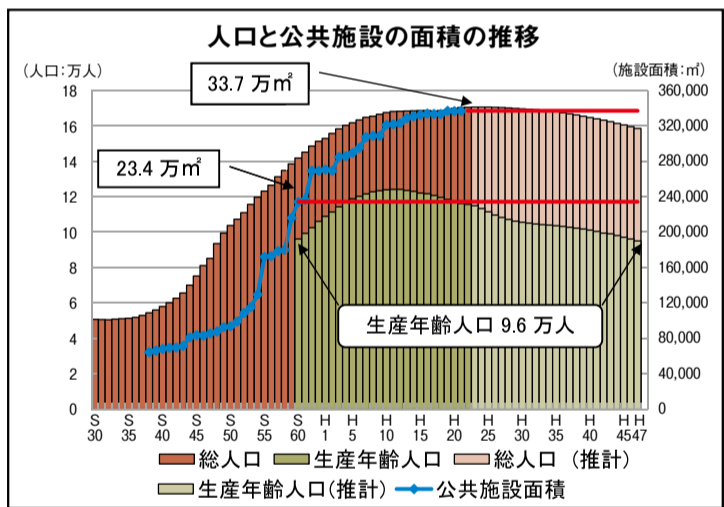


昭和50年代に建てられた公共施設が多い

今ある施設の半分は昭和50年代に建てられたってことは、もうすぐ一齐に建替えの時期が来るのね。

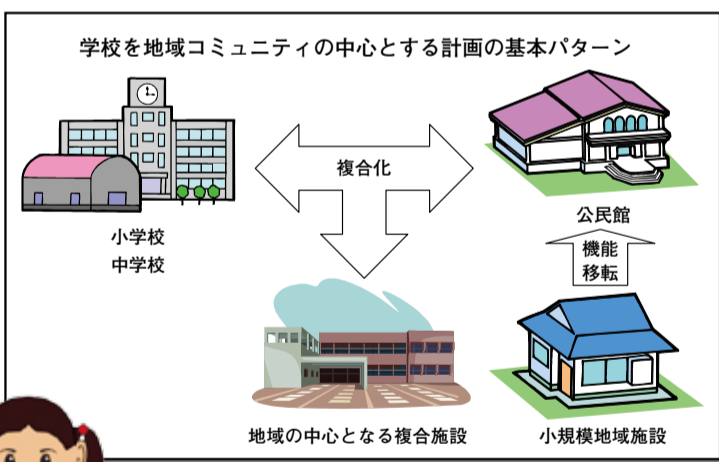
そもそも、今ある施設って、全部建替えなきゃいけないのかな？これって「今までと同じ」かも。

秦野市では、「今までと同じ」にしないように計画を作っているよ。その中で、小学校や中学校を地域のみんなが使える総合的な施設として維持しようとしているんだ。



人口減少と高齢化が一層進む

主に税金を納める生産年齢人口(15歳以上65歳未満)は、平成47年には9.6万人に減って、昭和60年とほぼ同じ数になるんだ。昭和60年の公共施設の面積は、現在の3分の2しかなかったんだね。



小学校や中学校を地域コミュニティの中心としていくのね。

進行中 公共施設再配置計画の「シンボル事業」



西公民館



保健福祉センター



老人いこいの家



障害者地域活動支援センター



「公共施設白書」や「公共施設再配置計画」をはじめとする取組の内容は、市のホームページで見ることができます。